原田病院外来診察担当表 （平成31年4月1日～）

●診察時間:午前9時～12時 午後4時～6時 ●受付時間:午前8時30分～12時　午後3時30分～5時30分

☆当院では待ち時間短縮のため午前中の診察は予約制となっております☆

□一般内科外来 ■糖尿病外来 ■泌尿器科外来 ■整形外科外来 ■慢性腎臓病（CKD）外来 ■在宅血液透析（HHD）外来

			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来	1診	山下（和）	山下（秀）	重本	西澤	小野	重本
		2診	佐々木	西澤	水入（腎臓内科）	水入（腎臓内科）	山下（秀）	山下（和）
		3診	藤井（血液内科）	大下	藤野	小野	大下	佐々木
		4診 DM	内藤（則）	小林（貴）	内藤（則）	原田（佳）	原田（佳）	広大
		5診	安達	原田（仁）	吉田（初診）	小林（貴）	松坂	（第1・3・5週目）／（第2・4週目） 土井（俊）（整形）／原武
		6診 初診	藤野	松坂	大久保	佐伯	原武	小林（知）
		7診	藤田	藤田	藤田	浅野（初診）	藤田	広大
		8診	―	―	―	―	―	（第1・3・5週目） 原武
	放射線科		石根	石根、広大	石根	石根、広大	石根、広大	広大
午後	外来	1診	15:00～16:00（第4週目） /16:00～18:00 循環器 木原/原武	15:30～16:00（予約） ／16:00～18:00 茂久田	15:00～18:00 碓井	16:00～18:00 原	15:30～16:00（予約） ／16:00～18:00 茂久田	15:30～16:00（予約） ／16:00～18:00 森本
		2診	14:30～16:30（不定期） 呼吸器 濱田	14:00～16:00/16:00～18:00 呼吸器/一般内科 坂本	14:00～15:00/16:00～18:00 特定健診 原田（佳）/浅野	14:00～16:00 PD 西澤	16:00～18:00 呼吸器 濱田	15:00～17:00 DM 広大
		3診	13:00～16:00 フットケア 大下	14:20～16:00 CKD 水入	15:00～18:00 血液内科 三原	14:40～16:20 CKD 水入	14:30～16:00 CKD 西澤	15:00～17:00 漢方 原武
		4診		―	13:00～14:00 禁煙外来 内藤（則） 16:30～18:00 HHD 西澤	―	―	―
		5診	15:00～18:00 中島（祐）	15:30～17:30 原田（仁）	16:00～18:00 佐々木	―	―	―
		7診	13:30～16:30 リウマチ・膠原病 河野	―	―	―	―	―
	放射線科		石根	石根	石根	―	石根	―

※手術・救急・学会などにより担当医が予告なく変更になることがあります。

一陽会

原田病院　院長　重本 憲一郎
〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号
TEL 082-923-5161 FAX 082-921-8035

一陽会クリニック　院長　碓井 公治
〒731-5133 広島市佐伯区旭園10番3号
TEL 082-924-0033 FAX 082-924-0037

デイケアあさひ　所長　寺沢 由香
〒731-5133 広島市佐伯区旭園9番31号
TEL 082-943-8610 FAX 082-943-8600

イーストクリニック　院長　有田 美智子
〒732-0814 広島市南区段原南1丁目3番53号 広島イーストビル6F
TEL 082-506-0123 FAX 082-567-7115

横川クリニック　院長　内藤 隆之
〒733-0011 広島市西区横川町2丁目7番19号 横川メディカルプラザ3F
TEL 082-231-0111 FAX 082-231-0155

クローバー訪問看護ステーション　所長　大泉 淳
クローバー居宅介護支援事業所　所長　平田 恵美
〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号（原田病院内）
TEL 082-925-6222（訪問看護） 082-925-6221（居宅介護）
FAX 082-925-6223（共通）

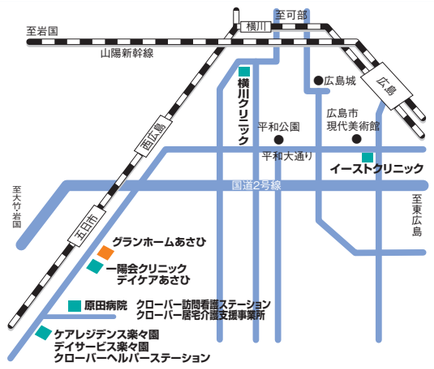
ケアレジデンス楽々園　施設長　吉田 美幸
デイサービス楽々園　所長　西 幸子
クローバーヘルパーステーション　所長　甲斐 慎一郎
〒731-5136 広島市佐伯区楽々園3丁目14番3号
TEL 082-943-8686（ケアレジデンス楽々園）
082-943-8585（デイサービス楽々園）
082-943-7088（ヘルパーステーション） FAX 082-943-8588（共通）

あさひメディコ

グランホームあさひ　施設長　三上 夕子
〒731-5133 広島市佐伯区旭園9番31号
TEL 082-943-7773 FAX 082-943-8600

発行　一陽会広報委員会
〒731-5134 広島市佐伯区海老山町7番10号
TEL 082-923-5161（代） FAX 082-921-8035
ホームページ http://www.icy.or.jp　E-mail info@icy.or.jp（一陽会 広報室）
ご意見ご質問があれば上記の一陽会広報室までご一報ください。

周辺地図



あとがき

「令和」の時代がスタートしました。新元号「令和」は、「万葉集」の中の「梅花の歌」という歌の冒頭「初春の令月にして、気よく風和ぎ…」から引用され、「初春の良い月夜で空気は澄み、風は穏やかで、梅は女性が鏡の前で白粉のふたを開けたように花開き、梅の香りは通り過ぎた女性の残り香のように漂っている」といった内容です。◆これまで元号はすべて中国古典からの由来でしたが、「明日への希望と共に、日本人1人ひとりが大きな花を咲かせる」という願いを込めてこの文字が選ばれ、「日本の四季折々の文化と自然をこれからの世代に引き継いでいきたい」という思いから、初めて日本の古典「万葉集」から引用したということです。◆一陽会でも新しい時代への体制づくりを着々と進めています。積み上げた努力がいつか大きく花開くよう今後も研鑽を続けてまいります。 (N.U)

一陽会広報誌 あさひ

令和元年 夏号 vol.61

題名「今治赤灯台」　撮影：香川 陽子

一陽会　基本理念

1 愛情ある奉仕の心を以って地域医療・介護に貢献する。
2 和衷協同して技術の向上と人格の形成に努める。
3 誠心と創意工夫を以ってその職責を全うする。

一陽会職員は、「愛・和・誠」を是訓として、日々の診療にあたっております。

患者の権利

1 **患者は人としての尊厳を維持する権利を有する。**
一陽会の職員は患者のプライバシーの保護に努めるとともに、人としての尊厳を重視する。

2 **患者は納得できる医療を受ける権利を有する。**
一陽会の職員は患者に必要な情報提供を行い、インフォームドコンセント（説明と同意）に努める。

3 **患者は医療機関選択の自由の権利を有する。**
患者にはいかなる治療段階においても他の医師等の意見をもとめる権利（セカンドオピニオン等）があり、一陽会はこれを支援する。

原田病院　基本方針

1 **地域ニーズに応える地域密着型の病院をめざす。**
すなわち、高齢化が進む今日、高齢者の急性期医療を担うという当院の役割を明確にする。その為に、病診・病病連携を密にし、紹介患者の受け入れ、及び回復後の逆紹介を励行する。

2 **医療、介護、福祉の関連機関と協力して、在宅医療を支援・推進する。**
また医療の質を高めることにより早期社会復帰、平均在院日数の短縮をはかり、急性期型病院を維持する。

3 **腎疾患、糖尿病、透析を中心とした急性期医療を提供する。**
特に透析医療では、当地区において中心的役割を果たすよう努力する。

4 **患者中心の医療を目指す。**
すなわち患者の権利、尊厳、利益、希望を尊重した医療を実現するため、相談窓口、検討機関を広く設け、積極的に実施する。

安達伸生教授による整形外科外来開始

原田病院では４月より、広島大学大学院医歯薬保健学研究科整形外科学 安達伸生教授による整形外科外来を開始しました。

安達 伸生 教授

- 広島大学 医学部(1988年卒)
- 広島大学大学院医歯薬保健学研究科整形外科教授
- 医学博士(2002年)
- 日本整形外科学会　認定スポーツ医・専門医
- 日本スポーツ協会認定スポーツドクター
- サンフレッチェ広島チームドクター
- 広島カープチームドクター　• 日本専門医機構整形外科専門医
- 日本軟骨代謝学会理事

診察時間　毎週月曜日　９時～12時（受付時間8時30分～11時30分）
※診察はすべて予約制となっております。詳しくは外来スタッフにお尋ねください。

横川クリニック　長時間専用透析室始動

４月、横川クリニックに長時間透析専用の透析室をオープンいたしました。

個室を4床、半個室を16床ご用意し、長時間透析を快適に過ごしていただくための環境を整えました。プライベートな空間で人目を気にせずゆったりと過ごしていただき、異常が発生した場合にはスタッフが素早く対応できるよう、穿刺部には漏血センサー、室内には監視モニターを設置し、安全面にも十分配慮しています。

◀個室

▲長時間専用透析室

▲半個室

長時間透析とは

長時間透析は、1回6時間以上の透析を週3回、週18時間以上の透析治療のことを言います。十分な時間をかけることにより通常の透析では除去困難な細胞内の毒素を除去できると考えられており、その結果、血圧変動・活力低下・不眠・掻痒などの症状が改善し、QOLが向上すると多くの施設からの報告があります。降圧薬やリン吸着薬の減量が可能となる方も多く、食生活の制限が少なくなることに満足されている患者さんも多くおられます。

内覧を希望される**医療関係者・透析患者さん**は下記連絡先までお問い合わせください。
横川クリニック　TEL 082-231-0111（平日９時30分～17時）

近隣医療機関のご紹介　古江中野眼科（西区古江新町）

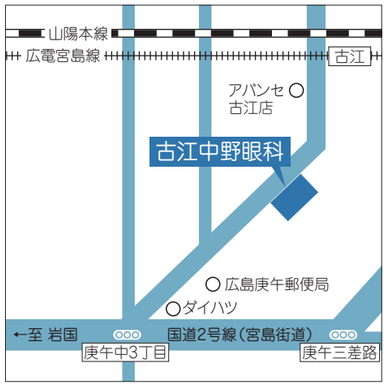
「開院57年目を迎えます。」今回は西区古江新町にあります、古江中野眼科のご紹介です。

当院は、昭和37年に亡父・中野淳巳が西区古江新町に開設し、今年で開院57年目を迎えます。平成10年から私(中野徹)が二代目院長となり、副院長(妻・中野美智子)とともに診療しております。近視や老眼の屈折異常から白内障、緑内障、また糖尿病網膜症や加齢黄斑変性症などの眼底疾患に至るまで、毎日多くの患者さんに来院していただいております。月曜日午後と木曜日の手術日には週12例程度の日帰り手術を行っており、現体制になってからの白内障・眼内レンズ手術(多焦点眼内レンズを含む)は7,700眼を超えました。

ご高齢の手術患者さんが多いため、全身疾患やお一人暮らしなどで不安を抱えておられる方も多く、原田病院での術後入院管理をお願いするケースも増えており、いつも大変お世話になっております。また糖尿病など内科との情報共有が重要な疾患をお持ちの患者さんも多く、これからも原田病院と連携することで、地域の患者さんに安全、安心な医療を提供して行きたいと思っております。

古江中野眼科 院長 中野 徹

- 所　在　地　〒733-0873 広島市西区古江新町1-22
  TEL:(082)271-5860 FAX:(082)271-5520
- 診 療 科 目　眼科
- 診 療 時 間　午前 9:00～12:00(木曜日は手術)
  午後14:00～18:00(月曜日･木曜日は手術、土曜日は13時～15時)
- 休　診　日　日曜日、祝日
- 駐　車　場　５台



いきいき百歳体操　リハビリテーション科

広島市は誰もが介護予防に取り組める地域作りを進めています。これは地域住民が主体となって運動を中心とした活動(いきいき百歳体操)を行う通いの場のことです。当院の近隣では楽々園や吉見園の公民館などで週１回実施しています。

その取り組みを広げていくため、地域包括支援センターが中心となり活動の指導や助言をリハビリ専門職と連携して行っています。当院リハビリ職員も地域の健康増進の一助となるよう積極的に現場へ赴き運動をわかりやすく指導しています。要介護状態となる主な原因には腕や脚の筋力低下があります。筋肉は使わないと衰えていきますが、鍛えることでいくつになっても強くなることが分かっています。しかもそれを維持するためには運動を継続する必要があります。地域の高齢者が運動を効果的に継続できる環境作りに私達はこれからも協力していきます。百歳体操へお出かけの際、当院スタッフがおりましたらお気軽に声をかけて下さいね。

リハビリテーション科 技士長 水野 和子

ASAHI INFORMATION

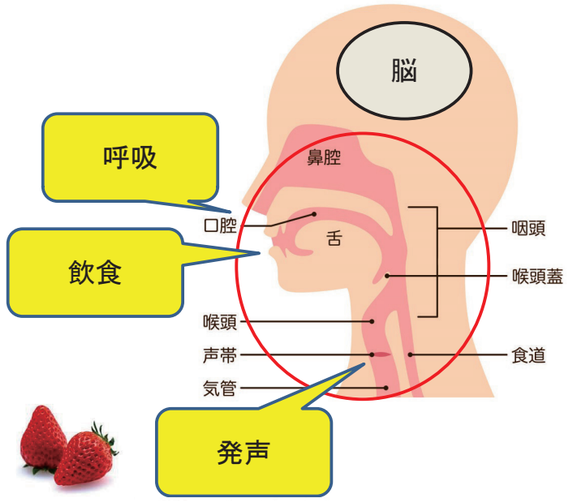
topics トピックス

「摂食・嚥下」について

摂食・嚥下障害看護認定看護師
百田 真志帆

「摂食・嚥下」って、聞きなれない言葉かもしれません。イラストの赤い○のところですよと言えば、「ああ、食べたり飲んだりするところね」と、理解しやすいかと思います。

ここは、食事を食べ、飲み物を飲み、あじわいや温度を感じる場所です。そして、生きていくための「呼吸」空気の通り道でもあり、人とのコミュニケーションとして大事な言葉を発する場所です。



赤ちゃんはおっぱいやミルクから、離乳食で少しずつ硬いものを食べ、やがて大人と同じものを食べるようになります。泣くことから呼吸を繰り返し、意味のある言葉を発し発音が徐々に複雑にできるようになります。首が座り、お座りから立ち上がり、歩くようになります。人は脳神経・筋肉の発達とともに摂食・嚥下の機能を完成します。

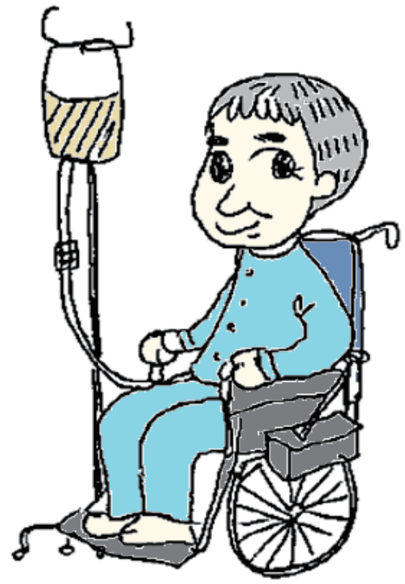
食事や呼吸、発声は、起きている体の状態で一番都合よく機能するようにできています。四本足の犬や猫は下を向いてご飯を食べ、上を向いて鳴きますが、人は口元まで手で食事を運んで食べますし、そのまま上を向いて話そうとしても声がかすれてしゃべりづらいでしょう。複雑な構造でたくさんの筋肉や神経で作られた繊細な場所であり、脳という司令塔がその複雑な操作を行っています。そのため、脳の働きが摂食・嚥下に大きな影響を与えます。いつまでも、おいしく食事をとるためには脳が働き、起きた体を維持し、食べる力を保つことが必要です。

そこで大事になるのが、筋力・予防力・**妥協力**です。

筋力とは、「起きている体の状態が保てること」そして「しっかり咀嚼(そしゃく)し、飲み込む力を保つこと」です。司令塔の脳に問題があるのであれば医師が原因を確認し、病気に応じた薬剤治療やリハビリテーションを指示します。リハビリによる身体機能の評価と訓練を行います。全身の筋力、飲み込む筋力、どちらも密接につながっています。おなかが空いたと感じるためにも起きて活動する筋力を維持しましょう。

次に予防力。体の抵抗力をつけ、病気の重症化を避けます。当院は、肺炎球菌ワクチンの接種を行っています。口の中をきれいに保つことは最大の予防策です。口腔ケアと、唾液腺マッサージやストレッチで潤った口を保つよう看護は関わります。かかりつけの歯科医を持ち、歯のメンテナンスも予防のひとつです。バランスの取れた食事を続けることは、体に免疫力を作ります。栄養科による栄養指導が参考になります。行っている検査の質問にも応じます。

最後に妥協力。実はこれが一番大切なのかもしれません。今の体を受け入れて何を大事にするのか決めることです。身近な家族とどんな生活を大事にしたいですか。人は加齢から逃げることはできません。脳の障害、認知症、慢性的な病気と付き合いながら生活する方もたくさんいらっしゃいます。どうしても飲み込む力が衰えて食べたものが気管に入り、誤嚥性肺炎を繰り返す場合、衰えた筋力を補うために食事をやわらかくし、食べる姿勢の調整や一口量の制限をすることがあります。そうすることで安全に食べることができます。そこには食べる方法を変えることを受け入れる妥協力が必要になります。家族は今までとは違う調理方法や介助についてどこまで可能か、妥協力が必要です。支援やサービスについて当院ソーシャルワーカーが情報提供を行います。リハビリ、看護から姿勢や食事介助の案内を行っていきます。薬の飲み込みに困るようであれば、薬剤科へご相談ください。



一番大きな妥協力に、「食べられなくなったら」の選択があります。口から食べることが難しくなった時、生きていくための栄養をとるために「胃瘻(いろう)」(経腸栄養といいます)あるいは「高カロリー点滴・中心静脈栄養」(経静脈栄養といいます)の方法があります。治療への葛藤が何度も起きるでしょう。

わたしは、どのような形でも、栄養をとることで体力が回復し、「起きている体の状態が保てること」ができれば活動のきっかけとなり、人として過ごす楽しみを見出せると考えています。起きた体を維持することは脳の働きを助け、また口から食べるためにも必要なことだからです。言い換えれば、栄養をとる方法がかわることで、活動を失うことになってはならないと考えています。そうならないためには医療者と本人、家族の思いの共有と協力が不可欠です。

文面を通してご飯を食べるあたりまえの幸せが、病気や加齢がきっかけで妥協力が必要になることを知っていただければと思います。

人が今までの食事を変えることは大きな喪失を本人にも家族にももたらします。摂食・嚥下に悩むとき、摂食・嚥下障害看護認定看護師として患者家族の思いを聴き、筋力・予防力・妥協力への協力とともに意志決定の支援ができればと考えています。

連携病院のご紹介 Vol.7 ～地域連携室より～

地域連携室 課長 佐々木 章

当コーナーは、当院が医療連携を結んでいる病院の、主に連携担当者として活躍されている職員の方にスポットを当てて紹介させて頂くコーナーです。

今回は、社会医療法人清風会 廿日市記念病院の地域医療連携室をご紹介します。朝原相談員（医療ソーシャルワーカー）と松田看護師にお話を伺いました。

○いつも大変お世話になっております。いつも気軽に相談させて頂いてありがとうございます。本日はよろしくお願いします！

（朝原相談員・松田看護師）「よろしくお願いします！」

○廿日市記念病院の病床数や地域医療連携室の職員構成などを教えていただけますか？

（朝原相談員）「回復期病棟が60床、医療療養病棟が42床、緩和ケア病棟が24床で合計126床のベッドがあります。私と岡（相談員）が回復期病棟と療養病棟を、松田が緩和ケア病棟を担当しています。非常勤の公認心理士を含めて計４名の職員が在籍しております。」

社会医療法人清風会 廿日市記念病院

○入退院支援における病院の取り組みなど教えてください。

（朝原相談員）「同一法人である五日市記念病院との連携はもちろんJA広島総合病院さんの脳外科の回診に毎週参加するなど、基幹病院へ積極的に訪問することでスムーズに連携が図れるよう努めています。」

（松田看護師）「緩和ケアでは複数の診療科の医師（消化器外科や呼吸器外科、脳神経外科など）が関わっており、幅広い疾患に対応できることが強みだと思っています。月１回のイベントや毎年10月の緩和ケア週間に合わせてオープンホスピスを開催しています。」

地域医療連携室の皆さま

○仕事を行う上でお二人が意識されていること、大事にされていることはありますか？

（朝原相談員）「退院後の生活を考えた上で入院の受け入れから退院までの支援を行っています。近隣の医療機関から安心して紹介して頂けるよう、チーム医療の一員として地域連携業務を行っています。」

（松田看護師）「患者さんが人生の最後をどこで迎えたいと考えておられるのか、療養場所の選択ということではなく、どのように生きるのかといった視点で、患者さんご家族に寄り添いながら支援していきたいと思っています。過去に訪問看護師として長年在宅支援に携わっていた経験を活かし、入院生活にとどまることなく希望の場所で生活が続けられるよう患者さんご家族のお手伝いをさせていただければと思っています。」

○ありがとうございます。お二人の熱い想いがどんどん伝わってきましたが、誌面の関係上この辺りで終わらせていただきたいと思います（すいません…）。

本日はお忙しい中お時間いただきありがとうございました！これからもよろしくお願いいたします！

（朝原相談員・松田看護師）「こちらこそありがとうございました！」

在宅事業部トピックス Vol.3 クローバーヘルパーステーション

サービス付き高齢者向け住宅･ケアレジデンス楽々園開設に合わせ、クローバーヘルパーステーションは訪問介護事業所としてH25年5月に開設致しました。

今後さらに、高齢化に伴う介護の必要性が高まると予想されます。一陽会として、新たな介護支援が提供できるよう、また住み慣れた地域で皆さんが安心して生活ができるようお手伝いをさせて頂きたいと思っています。

当事業者では高いスキルと心のこもった介護の提供を心がけております。その一環として平成30年度より介護プロフェッショナルキャリア段位制度（以下キャリア段位制度）に取り組んでいます。キャリア段位制度とは、平成24年度に内閣府で創設された人材育成の仕組みで、具体的には講習（認定）を受けた評価者（アセッサー）が日々の業務を通じ、職員の実践的スキルを指導・評価し、評価を受けた職員は実施機関（シルバーサービス振興会）よりレベル認定を受ける仕組みとなっております。

現在、当事業所には評価者（アセッサー）の資格認定を受けた職員が4名在籍し、効率的な指導体制を整えています。

今後も一陽会の職員として自己研鑽に励み、高い介護技術が提供できるよう取り組んでまいりたいと思いますのでよろしくお願い致します。

クローバーヘルパーステーション 所長 甲斐 慎一郎

Column コラム いきいきさん

1病棟 主任
浅田 悦子

誰からも相談しやすく話しやすい看護師を目指して自己研鑽しています。

平成15年に原田病院に入職して16年が経ちました。入職以来褥瘡（床ずれ）に関わる機会が多くあり、日々の業務の中で「知識･技術を身に付けたい」と思い、皮膚･排泄ケア認定看護師の資格を取得し、今年で５年目を迎えました。現在も病棟での勤務ですが、毎週火曜日は専用のPHSを持ち、病院内を横断的に活動させてもらっています。

褥瘡とは圧迫や摩擦､ずれなどにより血流が遮断されることによっておこります。そのため褥瘡は数時間で出来てしまい、出来てしまうと治癒するまでとても長い時間を要します。私たち病棟看護師は入院したその時からマットレスの調整や環境整備、体位変換用のクッションを使用し褥瘡予防を心がけています。また褥瘡を保有している患者さんには週に１回褥瘡回診を行っており、医師や薬剤師、栄養士、リハビリ技士など多職種一体となって治療に取り組んでいます。

誰からも相談しやすく話やすい認定看護師を目標に自己研鑽を忘れずこれからも頑張っていきます。

健康レシピ ササミのあっさり炒め

今回は、ササミを使った炒め物の紹介です。

ササミは高タンパクな食品として知られています。タンパク質は、筋肉を作るうえで重要な栄養素で、特に高齢者では、慢性疾患や嗜好の変化など様々な要因で低栄養のリスクが高まり、同時にタンパク質の摂取量が少なくなりがちです。筋肉量を維持し、活動的な生活を送るためにも、しっかり摂取したい栄養素の１つです。

ササミは、脂肪分が少ないためパサパサとした食感になりがちですが、今回は酒を揉みこむことで、それを防いでいます。使用する調味料も少なく、簡単に作れるレシピですので、ぜひ、お試しください。

エネルギー：140Kcal／たんぱく質：19.0g／塩分：1.1g

≪材料（１人分）≫

- ササミ…… 60ｇ（1.5本）
- 塩…… 0.3ｇ（少々）
- 酒…… 15ｇ（大さじ１）
- アスパラ…… 50ｇ（2本）
- 玉ねぎ…… 30ｇ（小1/5個）
- しめじ…… 20ｇ（1/5P）
- しょうゆ…… ６ｇ（小さじ１）
- こしょう…… 少々
- 油…… ２ｇ

≪作り方≫

① 塩をふったササミを耐熱皿に入れ、酒をふり、ふんわりラップをして電子レンジ（600W１－２分）で加熱します。
粗熱が取れたら、筋を取り除きながら裂いて、汁につけておきます。（後で再度炒めるので大きめの方がおすすめです）

② アスパラは根元を切り、斜めにスライスし、玉ねぎは細切りに、しめじは石づきを切って小房に分けます

③ フライパンに油をひき、アスパラ、玉ねぎ、しめじを炒めます。

④ ③に火が通ったら①と醤油・こしょうを加えさっと炒めます。

管理栄養士 行森 貴子